

どうする？ 離れた拠点のセキュリティ管理 インターネットのメリットをうまく活用しよう

特別講座



第4回 社内ネットワークの 統合管理を考える

営業所、工場など、本社以外に拠点を持つ企業にとって、離れた場所のセキュリティ対策は見逃しがちなポイントだ。「規模が小さいし、ウイルス対策ソフトを入れておけば大丈夫だろう」と本社に比べて管理が疎かになっていないだろうか。

企業では、1店ごとのパソコン数は少なくとも、売上情報や顧客データなどを保存している場合は、情報管理が気になる場所だろう。「わかっているが、管理のために訪問する時間はとれない」というのが現状かもしれない。しかし、インターネットからの脅威は本社、拠点を問わず同じようにやってくる。大事なデータを

扱っている以上、ウイルスを検知するデータベースであるパターンファイルが最新のものに更新されるか、修正ファイルが当てられているかなどを本社同様に把握し、足りない対策は実施しなくてはならない。

インターネットにつながる環境とWebブラウザがあれば、管理対象となる端末にはエフセキュアのサーバーから直接パターンファイルの更新ファイルが配信さ

では管理者が毎日拠点を訪ねることができない状況で、どんな策を講ずればよいのだろうか。利用したいのは、インターネットである。エフセキュアの「プロテクションサービスビジネス(PSB)」はこの課題を解決するサービス。PSBは社内のセキュリティ管理やパター



セキュリティ対策は 管理工数を考えよう!



パソコンの台数が増えたら、セキュリティ対策では管理ツールを用いて集中管理すると便利です。

〈解決事例〉フードサービス グリーンハウス社の例

- ・13年前に100台だったパソコンが3500台に増加
- ・集中管理ツールを導入(同社は企業規模から「ポリシーマネージャ」を利用)。パターンファイルは自動配信に
- ・最新パターンファイルの更新が丸一日かかる

管理工数を大幅に削減!

いずれにしても、会社で使うパソコンは一元的に状況を把握したい。ネットワーク環境を生かしたセキュリティ対策製品を用いて、管理の手間を減らしつつ、必要な対策を漏れなく実施しよう。

各パソコンのセキュリティ状況は管理ポータル画面に適宜表示されるので、担当者は自席にいながらにして拠点におかれたパソコンの状況を把握できる。対策上問題

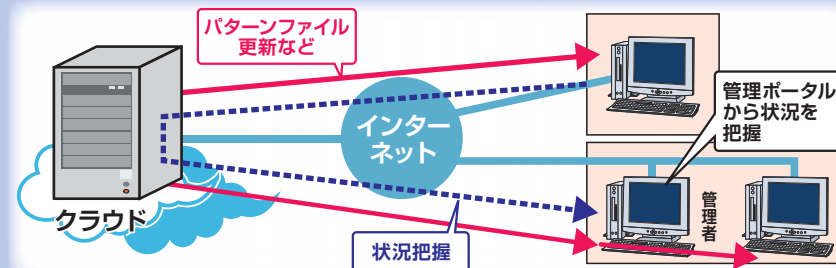
管理ポータルから パソコンの状況を把握

れる。したがって、拠点がいくつあってもそれぞれに基本的なウイルス対策が行われていくのだ。社内に管理サーバーを置かずに運用できるのは非常に便利だ。

があるパソコンには赤色で警告が出るので、該当者に確認するなどの措置を行えばよい。1ポータルあたり管理対象にできるパソコンは約100台。管理能力、メールとWebのウイルス対策に加え、スパイウェア対策、ファイアウォール、アプリケーションの利用制限、迷惑メールフィルタリングなどが提供されている。

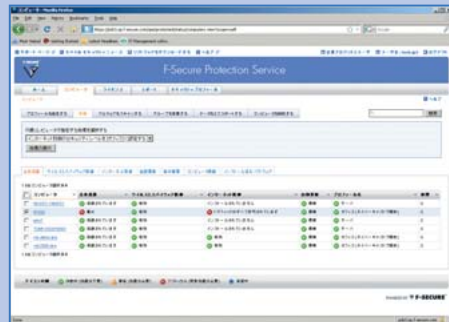
エフセキュアでは、管理台数が100台を超える企業や、拠点内のネットワークをインターネットに接続していない企業向けには「エフセキュアポリシーマネージャ」というエフセキュア製品向けの専用管理ツールを提供している。社内環境によってはこちらを検討するのもよいだろう。

拠点のセキュリティ対策もクラウド型なら簡単 エフセキュア「プロテクション サービス ビジネス」



- ・インターネットを経由して社内のパソコンのセキュリティ管理を実施。
- ・メールやWebのウイルス機能はもちろん、迷惑メール対策やファイアウォール機能も提供。
- ・Webからのポータル経由で提供される管理ツールによって、社内端末のセキュリティ管理を行うことができる。
- ・コストや手間を抑えつつ、社内ネットワークを外部脅威から堅牢に保護!

- 〈価格〉(利用1台あたりの年額単価)
- 1~24台 初年度5,200円、次年度以降5,200円
 - 25~49台 初年度5,000円、次年度以降5,000円



パソコンの状況を知らせる管理画面

お問い合わせ先

エフセキュア株式会社

電話:045-440-6610

http://www.f-secure.co.jp/

神奈川県横浜市西区高島2-19-12 スカイビル23F

